

市立

1994年（平成6年）4月1日発行

市川自然博物館

4・5月号

(通巻第31号)

だより

やさしい生態学 1

『行徳鳥獣保護区』



▲行徳鳥獣保護区の「新池」。湿地の生態系が見られる。

『行徳鳥獣保護区』

野鳥にとどまらない豊かな自然が育ちつつある

『行徳鳥獣保護区』は、鳥類、特に水鳥のための保護区です。隣接する「野鳥観察舎」では、望遠鏡でその姿を見ることもできます。しかし「今日は鳥が多く見られた」とか「少なかった」で済ませてしまうには、もったいない自然がそこにあります。「生態学」的な視点——生物どうしの関係や環境との係わり——で観察する時のポイントを、紹介します。

埋め立て地にぽっかり開いた水面

行徳鳥獣保護区は、市内新浜3丁目に宮内庁新浜鴨場と隣接してあります。「新浜」は現在の地名では「にいほま」と読みますが、「しんほま」とも呼ばれました。この新浜鴨場が以前は海べりにあたり、場内では鴨猟、前面の干潟では千鳥猟が行われていました。

行徳鳥獣保護区は、新浜鴨場の海側、東京湾岸を大規模に埋め立てた際に作られました。四角く海を残し、その一部に陸地を造成して、水鳥の飛来地としたのです。いまでは、住宅と工場にまわりをすっかり囲まれてしまいました。

干潟と湿地

行徳鳥獣保護区ができる前、つまり埋め立てが行われる以前の行徳のようすは、引き潮の時に姿を現す広大な干潟と、その背後の陸地部分（いまは住宅が立ち並ぶ）に広がる水田や蓮田、アシ原などで特徴づけられていました。つまり、干潟と湿地です。そこには、水辺を好む、大小多種多様な生物が暮らし、もちろん野鳥も多く見られました。行徳鳥獣保護区には、そういう自然を残し再生する願いが込められています。ですから、干潟と湿地という2つの自然環境が、この自然を見る上でのポイントになります。



行徳鳥獣保護区の干潟

行徳鳥獣保護区には、陸地部分に沿うようにして干潟が形成されています。幅の狭い帯状の干潟が大部分ですが、人工干潟とはいえ造成後20年以上が経過しており、いまでは、さまざまな生物が住みつき、お互いの複雑な関係、つまり生態系を作り上げています。

微細なプランクトン、それらを食べる小さな魚たち（多くは幼魚や稚魚）、海水とともに餌を取り込む二枚貝、死骸を食べるカニ類、泥の中の有機物を食べるゴカイ類など、それらが食う食われるの関係にあって、他の種類にすみかを提供したりしているのです。そして、シギ・チドリ類やサギ類、カモ類、カモメ類など、野鳥観察舎を訪れる人たちが目的とする鳥類は、そういった生態系の一部としてあります。

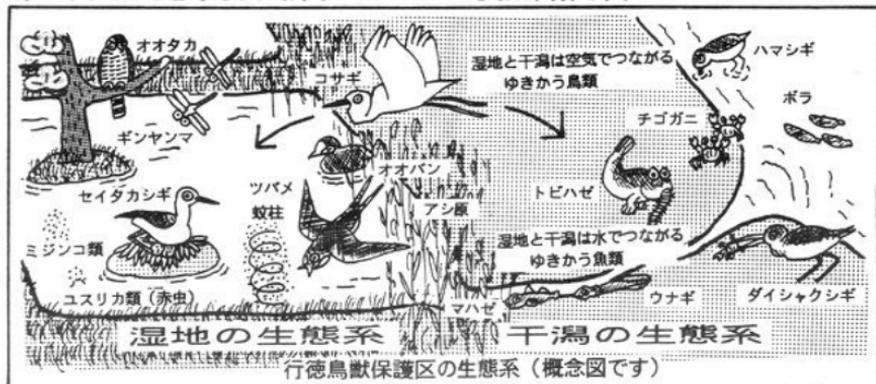
行徳鳥獣保護区の干潟を実際に歩ける機会は、ごく限られています。しかし、望遠鏡で見る鳥の姿のかけには、そういう干潟の生態系があるのです。同時に、それは、海水を通じて結ばれている他の干潟や浅瀬とともに、東京湾奥一帯の大きな生態系を形づくっていると考えられます。

行徳鳥獣保護区の湿地

行徳鳥獣保護区の陸地部分には、池を中心としたいくつかの湿地があります。そのうち、6年余りに造成された「新池」と呼ばれる湿地は、どぶ川を流れる家庭排水を水源とすることが特徴で、どぶ川の水の浄化と湿地の自然の再生を組み合わせさせた試みが、各方面から注目されました。

「新池」には、池の造成後、さまざまな生物が住みつきました。それらは、ミジンコ類やユスリカ類、アメンボ類、トンボ類などで、多くは池や小川、田んぼで見られる種類でした。また、翅がないので飛んで来られないカダヤシなどの魚類やアメリカザリガニなどは、人の手で放されました。

行徳鳥獣保護区の陸地部分には、池や田んぼを思わせるような、湿地の生態系が育ちつつあります。行徳鳥獣保護区というと多くの人が、いまでもスズガモの大群を思い浮かべるように、ここは、海辺の鳥が暮らす場所という印象が強くあります。しかし、「海」とか「干潟」という視点と同時に、ここの自然を観察する上では「池」、「湿地」あるいは「田んぼ」といった視点もまた大切です。



望遠鏡で見る干潟

干潟の生物は、野鳥観察舎の望遠鏡を使って見るができます。特に、6月以降の干潟はにぎやかで、引き潮の時に望遠鏡のピントを合わせてみると、チゴガニの求愛ダンスや、ヤマトオサガニが餌をとる様子、ビョンビョン飛び跳ねるトビハゼの行動などを観察することができます。

また、4月はシギ・チドリ類が多く飛来するシーズン。干潟を舞台としたさまざまな行動を見ることができます。

園内観察会で見る湿地

月に2回、催される園内観察会は、ふだん立ち入れない行徳鳥獣保護区の内部を見ることができる数少ないチャンスです。この観察会に参加すれば、陸地部分をぐるりと回ることができます。そこには、野鳥観察舎の窓から見える海辺の風景とは別の、池や湿地、草原といった風景が広がっています。春・夏なら繁殖中の野鳥の親子、秋・冬なら、アシ原で冬を越す小鳥たちに出会えるかも知れません。

●行徳野鳥観察舎

(〒272-01 市川市福栄4-22-11

☎0473(97)9046)

開館：午前9時～午後4時30分

休館日：月曜日（月曜が休日の場合は、火曜日）。毎月、最終金曜日。年末年始。

交通：地下鉄東西線・行徳駅より
バス利用。

●園内観察会

期日：毎月第1・3日曜日

集合：野鳥観察舎に午後1時30分
(だいたい2時間、雨天中止)

生態系の変化を追う楽しみ

行徳鳥獣保護区の自然は、造成後、さまざまに変化してきました。ただの埋め立て地がヨシやセイタカアワダチソウの茂る草原となり、かつて大群で飛来したスズガモが減り、セイタカシギが集団で繁殖したりしました。そういう記録をたどると、一口に「保護区」といっても、その様子が大きく変化していることがわかります。

また、陸地部分にある池は、いずれも人の手で作られたものです。なかでも「新池」は、池に初めて水を注いでからの水質や生物相の変化が記録されています。そこからは、池や湿地の生態系のようすをうかがい知ることができます。また、今年の1月に

通水された新しい池「みなと新池」は、水に若干の塩分が含まれる「新池」と違い、ほぼ淡水だとされています。この池にどういう生物が住みつき、その様子がどう変化していくのかが、注目されます。

〔参考文献〕

行徳鳥獣保護区の歴史、概要について
「よみがえれ新浜」（行徳野鳥観察舎友の会発行。観察舎で入手可能）

「新池」について

「せせらぎ1号 発車オーライ」（行徳野鳥観察舎友の会発行。観察舎で閲覧可能）

「水鳥が戻ってきた」（蓮尾純子著、NTT出版発行。書店で購入可能）



街かど自然探訪

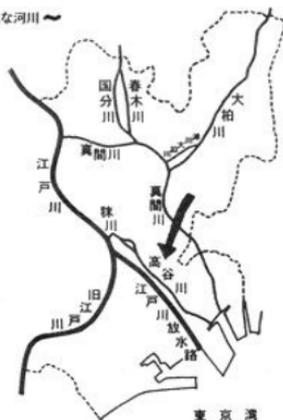
おじゃまして!

高谷（こうや）、一級河川・高谷川

市内に9本ある一級河川のうち、江戸川放水路の左岸を並行して流れるのが、高谷川です。一級河川とはいうものの、一見した姿は「どぶ川」で、水源は大部分が家庭からの生活排水です。水質は、かなり汚濁した状態にあります。

しかし、水辺にはヨシが生え、コサギや、時にはカワセミが飛来します。餌を取れると思って、様子を見に来るのでしょうか？ 都市にある水辺は、限られています。きっと、人間以上に水がきれいになることを願っているのでしょう。

主な河川～



東京湾



行徳野鳥観察舎

だより



春はオニグモからすーっ、と目の前に大きなクモがぶら下がった。冬中ずっと黒いしみのように天井にしがみついていたオニグモが、いよいよ活動を開始したのだ。室内には十分な獲物はいないし、玄関灯のあたりで冬越ししているクモたちにくらべ、がりがりにやせている。それでも、力つきてぼとりと落ちたわけではなく、ちゃんと糸をひいて降りてきたのだ。外に出してやったが、無事に網が張れただろうか。

暖かくなったな、と思うと間もなく壁にはりついた卵塊から子グモがかえる。1ミリ足らずのクモの子が細い糸をひいてぞろぞろ動きだすと、糸が薄いガゼ



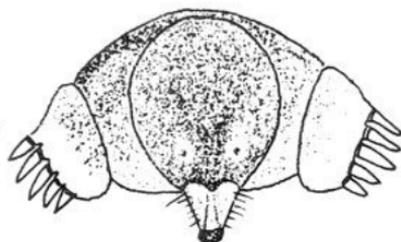
文と絵・蓮尾純子
のようにひろがる。数千匹の子グモのうち、生きのびて来年の春を迎えるのは数匹どまり。しっかり。

いちかわの 野生生物

アズマモグラ (*Mogera mogura mogura*)

アズマモグラは、草地や農耕地、林ばかりでなく、住宅地の庭や公園といった私たちの身近にあり、トンネルを掘ったときに出る土を押し上げてできたモグラ塚によって、容易にその生息を知ることができます。

からだはでっぱりのない円筒状で、トンネル生活に適応しています。前肢は横向きにつき、強力な筋肉によって太く短い腕を回転させ、強大な爪のついた円く大きなス



コップ状の手を水平方向で前後にかいて、土を効率よく掘れるようになっています。

ミミズやコガネムシ、チョウ、ガなどの昆虫の幼虫を主として、地中や地表にいる小動物はなんでも食べる大食漢で、1日に自らの体重ほどの量の餌が必要です。

このためモグラの生息数は餌の量により大きく変わります。湿潤で柔らかく土壌層の厚い、ミミズや土壌昆虫などの餌動物が多いところではモグラの生息数も多く、都市化が進んで土壌が硬くなり餌動物が少なくなると、モグラの生息数は激減します。

4・5月の行事案内

自然観察会

○どなたでも参加できます。申込先着20名。

4月24日(日)	春の野草観察	堀之内周辺	午前 9:30~	4月1日受付開始
5月29日(日)	谷津の動植物	自然観察園	11:30	5月1日受付開始

遊やってみよう！ みてみよう！

○対象：小学生と保護者
○申込み先着10組

4月9日(日)	春の花で遊ぼう！	自然博物館 および 自然観察園	午後 1:00~ 4:00	受付中
5月14日(日)	大ききくらべ			4月15日受付開始

●申込み方法：往復はがきに参加者全員の住所、氏名、年齢、電話番号、参加した行事名を明記の上、博物館まで。(宛先は巻末をご覧ください。)

柏井研究講座

毎月第1・3土曜日の午後、柏井雑木林(いちかわ市民キャンプ場)で生物調査と学習を行っています。随時参加者を募集していますので、興味のある方は博物館まで電話でご連絡ください。(自然博物館 ☎0473(39)0477)

わたしの
観察ノート
 No.13

◆大町自然観察園より

- ・ビンズイとトラツグミを見ました
 (1/13 初認)
- ・ホオゾログアモガ飛来しました(1/20)
- ・ヨシ原にオオジュリン、湿地ぎわのやぶにクロジ、斜面林ではオオタカが観察できました(2/24)
- ・カシラダカのさえずり(3/17)
 以上 須藤 治(自然博物館)
- ・ニホンアカガエルの卵塊を発見しました(1/19)
- ・ホソミオツネントンボが飛びはじめました(3/17)
 以上 阿部則雄さん(船橋市在住)
- ・アトリを見ました(2/14)
- ・セントウソウが咲いていました。コブシも、1つ2つ咲きました(3/17)
- ・儂いものたえ・カゲロウが飛びはじめました(種類不明)(3/17)
 以上 金子謙一(自然博物館)

◆柏井雑木林より

- ・積もった雪の上に、ノウサギの足跡がついていました(1/29)
- ・キジバトを食べるオオタカの迫真の光景を観察しました(2/5)

柏井研究講座参加のみなさん

◆柏井町4丁目より

- ・グラウンドで、ヒバリがさえずっていました(2/5)

須藤 治

◆南大野より

- ・大柏川の泥洲の上に、キセキレイが来ていました(1/24)

金子謙一

◆北方遊水池より

- ・ツリスガラを観察しました(2/26、3/1、3/3、3/5、3/6)

石井信義さん(菅野在住)

◆市川駅付近より

- ・上空をチョウゲンボウが通過しました(2/10)

手塚 真理(自然博物館)

◆ウグイスだより

- ・ウグイスのさえずりの記録です

3/1 八幡5丁目にて

3/3 八幡5丁目にて

3/11 富貴島小学校付近にて

以上 稲田重子さん(本北方在住)

3/3 菅野1丁目にて

町山万喜雄さん(菅野在住)

3/1 大町自然観察園にて

金子謙一

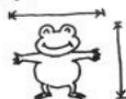
やってみよう! みてみよう!



自分の体をものさし代わりに
使えば、野外出ているいろいろな
の長さをはかれるよ!



★体のいろいろな部分の長さを感じよう!



・背のたかさ
・手をひらけた長さ



・親指を指し指
をひらけた長さ



・ふつうのはやさ
歩きの長さ

★★さあ! 外に出て測ってみよう!



5月14日の行事(やってみよう! みてみよう!)
ではこんなことをしてあそびます。
みなさんねー! 詳しいは行事案内で



博物館利用 あんない

- 開館時間 午前9:30～午後4:30
- 休館日 毎週月曜日(ただし、月曜が
休日の場合は翌日)
※ゴールデンウィーク 期間中は、5/2園
がお休みです
- 交通
 - JR本八幡駅から京成バス
 - * 「動植物園」行き 終点下車
 - * 「大町駅」行き 「駒形」下車
徒歩15分
 - ※どちらのバスも、
京成線「八幡」駅前
JR武蔵野線「市川大野」駅前
に停車します
 - 北総線大町駅から京成バス
 - * 「本八幡駅」行き 「駒形」下車
徒歩15分
- 車の場合は、動物園入口にある有料の駐車
場(普通車1日500円)をご利用ください。



- 博物館だより
定期講読者募集
送料分の80円切手5枚をお送りください。
次号6-7月号から平成7年2-3月号ま
で(合計5部)お送りいたします。住所、
氏名、年齢、を明記の上、博物館まで。

市立市川自然博物館だより
第6巻 2号 (通巻第31号)
発行日/平成6年4月1日 (偶数月発行)
編集・発行/ 市立市川自然博物館
〒272 千葉県市川市大町 284番地
☎ 0473(39)0477